

アクションプラン評価

所属名	教育委員会(事務局) 教育総務課
-----	------------------

(1)項目	<p>5 スポーツの振興</p> <p>(1)心豊かで活動的な地域スポーツ社会の構築</p> <p>【目指すところ】</p> <p>①少年期のスポーツ活動の適正化 ②生涯スポーツ社会の実現に向けて ③トップアスリートの育成(競技力の向上)</p>
-------	---

(2)取組の方向	<p>①学校体育・スポーツ活動の充実【再掲2-(3)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたりスポーツに親しむ資質や能力の基礎を育て、体力・運動能力の向上と健康の保持増進を図る。【再掲5-(1)】 ・今後の運動部活動のあり方について、提言の趣旨に則った運動部活動を推進。【再掲5-(1)】 ・運動部活動指導者の指導力の向上と外部指導者の効果的な活用の推進。【再掲5-(1)】 <p>②青少年健全育成に基づいたスポーツ活動の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗のみにこだわらず、いろいろなスポーツを体験させたり、スポーツ活動以外にも仲間との交流や奉仕活動をさせるなど、青少年健全育成の理念に基づいた活動の奨励。 ・青少年健全育成の理念に沿った適切な指導等の普及・啓発。 <p>③地域における生涯スポーツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの設立及び育成の支援。 ・地域スポーツの振興やスポーツに対する県民への啓発(各種イベント開催等)と、各市町村や関係団体等の連携を密にした推進組織の整備。 ・NPO法人やプロスポーツ団体との連携によるスポーツ活動の普及・活性化の推進。 ・高齢者や障害者が取り組みやすいスポーツ・レクリエーション活動の普及等。
----------	--

(3)H24アクションプランの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・県民スポーツ・レクリエーション大会を開催するとともに、旧39市町村単位での総合型地域スポーツクラブの設置を目指します。 ・県教育委員会で実施していた一部の事業を(財)鳥取県体育協会に委託する等、競技力向上に係る両者の役割分担を見直すとともに、一層の連携強化のもと、競技力の総合的な向上を図ります。 ・一貫した理念や内容で組織的・計画的にジュニア期(小中高)の指導体制の確立を図るとともに優秀なジュニア選手の発掘・育成・強化により、本県の競技力向上を目指します。 ・スポーツに関する施策の一層の充実を図るため、スポーツ審議会を設置します。
-------------------	--

(4)主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ▽競技力向上対策事業費 ▽スポーツ・レクリエーション事業 ▽とっとり広域スポーツセンター事業 ▽生涯スポーツ推進費 ▽スポーツ振興奨励費補助金 ▽ジュニア期一貫指導体制推進事業 ▽国体成年団体競技強化事業 ▽競技スポーツ推進事業 ▽競技力向上のための指導者の確保事業 ▽コカ・コーラウエストスポーツパーク布勢陸上競技場ブランド化事業 ▽因幡・但馬ジオパーク地域スポーツ交流事業 ▽スポーツ審議会費 ▽中学校武道必修化に伴う外部指導者派遣事業 ▽小学校体育専科教員の配置
---------	---

(5)最終評価

①少年期のスポーツ活動の適正化

最終評価	C	評価理由	<p>【スポーツ健康教育課】</p> <p>○小学生期における適正な指導の在り方について研修する指導者講習会を2競技団体での開催したが、全クラブからの参加には至っておらず、周知徹底できていない部分がある。</p> <p>○適正な指導の徹底について通知したり啓発リーフレットを配布したりして、各市町村や学校等においての取組を促したが、まだ、具体的な取組に至っていないところが多く、適正化が十分図られているとは言えない。</p>
------	----------	------	--

有識者の意見	○スポーツクラブの指導者(小学校)との情報共有化に課題があるという評価であるが、小学校でクラブ活動が社会教育に移行したマイナス面が如実に表れている。努力義務として、年2回、小学校が呼びかけて意見交換会を開催してはどうか。
--------	--

②生涯スポーツ社会の実現に向けて

最終評価	B	評価理由	<p>【スポーツ健康教育課】</p> <p>○県体協と協力し、研修会や連絡協議会を開催によって、総合型地域スポーツクラブ運営の充実ができた。</p> <p>○本年度、3クラブの設立があったが、一方でtoto助成がなくなって運営が続かなくなったり、活動が停滞しているクラブもある。</p> <p>○県民スポレク祭は、一部天候により未実施の競技があったが予定通り実施し、のべ10,000人を超える参加者があり、県民のスポーツ参加の祭典として根付いている。</p> <p>○鳥取県スポーツ審議会を計6回開催し、生涯スポーツ振興の方向性</p>
------	----------	------	--

	る。	について意見をいただき、計画の策定が進み始めた。 【子育て王国推進局青少年・家庭課】 ○青少年の健全育成等に有効な手法であるレクリエーションの普及に関して全県的な活動を行う鳥取県レクリエーション協会へ助成することで、レクリエーションの普及振興の一助となった。
--	----	---

③トップアスリートの育成(競技力の向上)

最終評価	B ほぼ計画(予定)どおり推進している。	評価理由	【スポーツ健康教育課】 ○ぎふ清流国体において、順位は前年度と同じ44位であったが、得点は30点以上増加した。特に、少年の活躍が顕著であり、県体育協会や競技団体と連携して取り組んできたジュニア期からの一貫指導の成果が現れつつある。
------	--------------------------------	------	--

(6)平成24年度の取組状況と成果等

①少年期のスポーツ活動の適正化

H24年度の取組(年度末現在)		成果
【スポーツ健康教育課】 ○サッカー、卓球、バドミントンの3競技団体と連携し、指導者講習会を開催する予定で取り組んだ。サッカーは、開催ができなかったが、卓球は12月開催。バドミントンは、3月に開催した。 ○熱中症に関する注意喚起の通知と併せて、各クラブに適切な小学生スポーツ活動に関する啓発リーフレットを配布した。 ○体力テストアンケートを併せて、各小学校に小学生のスポーツ活動に関するアンケートを実施した。 ○部活動指導における体罰等の問題を受けて、小学生スポーツ活動における適正な指導の徹底について、各市町村教育委員会教育長に通知した。 ○スポーツ審議会において、小学生期のスポーツ活動について意見をいただいた。		【スポーツ健康教育課】 ○6月に、鳥取市PTA会長・副会長研修会において、小学生のスポーツ活動について研修会がもたれるなど、具体的な取組が始まったところもある。 ○いくつかの地域で、市町村教育委員会主催の小学生スポーツ指導にかかる研修会が実施された。
課題及び今後の対応		
課題	平成25年度の対応	
【スポーツ健康教育課】 ○小学生スポーツは地域のスポーツ活動であり、各市町村や県体協及び競技団体、学校との一層の連携が必要である。	【スポーツ健康教育課】 ○スポーツ審議会等で意見をいただくとともに、生涯スポーツ担当者会、県体育協会との意見交換会等で、意見交換をしながら、具体的な取組を検討する。 ○平成25年度は、運動部活動のガイドラインを策定することとしており、この中に小学校スポーツ活動の内容も盛り込む予定である。	

②生涯スポーツ社会の実現に向けて

H24年度の取組(年度末現在)		成果
【スポーツ健康教育課】 ○総合型地域スポーツクラブの充実に向けて、アシスタントマネージャー養成講習会を5、7、8月の計3回県教委主催で実施した。また、12月と3月に体育協会と連携し、クラブマネージャーの研修会開催し、各クラブの充実を図った。 ○東部・中部・西部それぞれ連絡会等を開催し、活動が停滞しているクラブに訪問相談活動を実施しながら活性化を支援した。 ○鳥取県スポーツ審議会を設置し、6月、8月、10月、11月、1月、3月の計6回審議会を開催した。 ○国から示されるスポーツ推進計画を勘案しながら、本県スポーツ振興計画の見直しを図るため、計6回のスポーツ審議会を開催し、スポーツ振興計画の見直しについて審議を進めている。 【子育て王国推進局青少年・家庭課】 ○鳥取県レクリエーション協会が実施するレクリエーションの様々な体験ができるイベントに係る経費の一部を助成した。		【スポーツ健康教育課】 ○アシスタントマネージャー養成講習会を3回実施、資格試験に6名が合格した。また、3が立ち上がった。 ○6月、8月、10月、11月、1月、3月の計6回スポーツ審議会を開催。鳥取県スポーツ振興計画の見直しについての具体的な審議を進めてきた。 ○本年度、若桜町、鳥取市に新たに総合型地域スポーツクラブが設立。また、倉吉市に1地域で総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会が立ち上がった。 【子育て王国推進局青少年・家庭課】 ○青少年の健全育成、健康で生きがいに満ちた暮らし、めくもりのあるコミュニティづくりに有効な手法であるレクリエーション普及に関して全県的な活動を行う鳥取県レクリエーション協会へ助成することで、レクリエーションの普及振興の一助となった。
課題及び今後の対応		
課題	平成25年度の対応	
【スポーツ健康教育課】 ○クラブ運営に行き詰まったり、運営できずにやめてしまうクラブが出てきた。既に立ち上がっている総合型地域スポーツクラブの充実と併せて、鳥取県にあった地域における生涯スポーツ推進の方策を検討する必要がある。 【子育て王国推進局青少年・家庭課】 ○より多くの方にレクリエーションの体験をしていただくこと、また、開催に係る経費を節減することが課題として考えられる。	【スポーツ健康教育課】 ○総合型地域スポーツクラブ連絡協議会での意見交換やスポーツ審議会での審議を踏まえて、具体的な施策を検討する。 【子育て王国推進局青少年・家庭課】 ○平成25年度の鳥取県レクリエーション大会は、初めて鳥取県教育委員会事務局が所管する「県民スポーツ・レクリエーション祭」の一部部門という形で実施が予定されており、これにより一層の集客と会場使用料の削減が期待できる。 ○当課としては経費の助成のほか、イベントのPR協力などの対応を行う。	

③トップアスリートの育成(競技力の向上)

H24年度の取組(年度末現在)		成果
【スポーツ健康教育課】 ○H23年度作成したジュニア期一貫指導プログラムをもとに、県体協と連携し競技団体ごとに系統的かつ総合的な強化を図るため、競技団体ごとの講習会を実施した。(36競技中34競技が実施) ○引き続き指導者の適正配置や育成に努めるとともに、特に指導体制の強化が必要な競技について指導者を確保した。		【スポーツ健康教育課】 ○ジュニア期の強化事業により取り組んできた成果が現れ始め、第67回国民体育大会ぎふ清流国体において、3年前の新潟国体で少年が獲得した(78点)に比べ、2倍以上の競技得点172.5点獲得。総得点260.5点の66.2%を少年が獲得し、ここ10年で最高の得点率であった。また、日本一5種目のうち4種目を少年が獲得した。 ○ロンドン五輪で川中選手(アーチェリー)が銅メダル獲得や、佐藤

選手(ホッケー)が9位、世界ジュニアトラック選手権大会で佐伯選手(自転車)が5位入賞など鳥取で育成された選手が世界の舞台で活躍するようになった。
 ○指導者の適正配置や育成に努めるとともに指導体制の強化が必要な競技について県教委に1名、県体協に1名、私立学校に1名の指導者を確保した。その結果、県教委確保者については、自身がカヌーの全日本ランキング1位になり、国体入賞を果たしたほか、ジュニアの指導にも当たっている。県体協確保者については、指導に当たったジュニアの選手がサーリングで国体優勝を果たした。私立学校確保者については、指導に当たるバドミントンでインターハイ選手及びジュニアの国体選手を育成した。

課題及び今後の対応

課題	平成25年度の対応
【スポーツ健康教育課】 ○大会成績や日ごろから取り組まれる競技力向上の取組について、より効果のある競技力向上施策を図るため検討が必要である。	【スポーツ健康教育課】 ○より効果のある競技力向上施策を図るため、国体等の全国大会の結果分析や競技団体からの聞き取りをもとに、来年度に向けた施策について細やかな検討を行う。 ○スポーツ審議会等で意見をいただくとともに、県体育協会や競技団体と意見交換をしながら、競技力向上に向けた具体的な取組を検討する。 ○指導者の適正配置や育成に努めるとともに指導体制の強化が必要な競技について県教委に1名、県体協に1名、私立学校に2名の指導者枠があり、採用に向けた取組を実施する。

No.	数値目標	20	21	22	23	24	25(最終年度)
1	総合型地域スポーツクラブの設置	旧20市町村 52%	旧21市町村 54%	旧22市町村 57%	旧22市町村 57%	旧20市町村 51%	旧39市町村 100%(H28)
2	県民(成人)の運動・スポーツ実施率:平成16年度実績(44.3%)	直近調査はH16 6	51.7%	直近調査はH21 21	直近調査はH21 21	直近調査はH21	60%以上
3	国民体育大会	46位	47位	46位	44位	44位	40位台前半 (常時30位台)